

口 絵

発刊のことば

木祖村長 武重 善博

凡 例

第一章 明治維新と村の姿 1 44

はじめに――幕末から明治へ―― 3

第一節 明治維新前後の国 県の動き 6

一 山村氏統治の終末 6

二 名古屋県から伊那県 筑摩県へ 7

三 筑摩県から長野県へ 7

四 明治天皇の行幸 10

第二節 明治初期における村役人 13

第三節 戸籍法の制定と区制 16

一 村と耕地 16

二 戸籍法の沿革と戸籍区の設置 16

三 大区 小区への移行 16

18 16 16 16

第四節 地租改正と村政 21 21

一 地租改正 21
(1) 王申地券 21
(2) 地租改正の実施 22

二 初期の地方財政と村の財政 24

(1) 明治初期の地方財政 24
(2) 村の財政 25

三 議会の様子 24

四 開産社と産業の育成 27

一 「明治七年中物産取調書」 32
二 「明治九年の木祖村一覧」 32
三 「山林調一覧表」 32

43 35 32 32

(1) 蔡原村 44 / (2) 萩曾村 蔡原在田上 44

第二章 三新法時代と町村制以後の村政 : 45~80

はじめに

第一節 三新法時代の村政

一 郡制と郡役所の設置

二 戸長と筆生

三 県会議員の選出

四 村会と連合戸長役場

(1) 村会の開設 54/(2) 連合戸長役場の設置 55

五 三新法時代の村財政

56

54

53

52

48

48

47

三 区会の設置と区長の選出

71

67/(9) 木祖村財産 71

(1) 蔽原村と小木曾・菅・吉田の各耕地と区会 71/(2) 区会条例

73

四 村条例による区の設置

74

(1) 区長規定 74/(2) 大正四年十二月一日の改正

76

五 役場の変遷と吏員 : 77~80

はじめに

六 郡制施行と郡会議員の選舉

(1) 郡会 79/(2) 歴代郡会議員 80

79

77

第三章 新生「木祖村」の誕生 : 81~112

はじめに

第一節 明治七年 木祖村の誕生

一 誕生の経緯

二 仮役所（役場）の開設

三 「蔽原在郷」と「荻曾村内吉田」の統合

56

54

53

52

48

47

第二節 町村制施行以後の村政

一 町村制施行の経緯

60

59

59

59

59

59

59

第二節 明治十七年の分村運動

一 「分離諸日記簿」に見る分村運動

(1) 明治十四年 88/(2) 明治十五年 91

二 運動の費用

三 戸長役場の設置

二 町村制による村の政治

(1) 村会議員の選挙 60/(2) 議員の改選 62/(3) 初代村長

永瀬幸右衛門の誕生 63/(4) 村長 助役の選挙と名誉村長か

ら有給村長へ 63/(5) 議会 64/(6) 議事細則と村条例

66/(7) 当初予算 67/(8) 明治二十二年度歳入歳出予算

67/(9) 木祖村財産 71

第三節 明治二十二年の再合併

一 「町村制」施行による再合併の経緯

二 答議書に見る三村の立場

(1) 蔽原村の立場 109/(2) 小木曾村の立場 110/(3) 菅村の

立場 110/(4) 郡長の意見書 111

109 108 108

107 107

88 88

88

87

86

84

84

83

81
112

79

77

第四章 戦前の村政と社会生活の歩み··· 113

168

(大正三年八月三十一日建立) 132 / (3) 応徵馬記念碑(昭和九年三月十七日建立) 133 / (4) 戰没英靈之碑(昭和二十八年四月二十八日建立) 133 / (5) 拓魂碑(宝泉開拓団記念碑・昭和四十九年十二月建立) 133 / (6) 平和之塔(平成五年八月十五日建立)

はじめに···

第一節 大正から昭和前期の村政···

一 大不況のなかで···

二 第一回国勢調査と大正から昭和の人口動態···

(1) 第一回国勢調査 117 / (2) 大正から昭和の人口動態 118

三 大正 昭和前期の村の動き···

四 「木祖村事務報告書」に見る村政···

(1) 大正元年 120 / (2) 昭和十年 122 / (3) 昭和十九年 125

125

119 118 117 116 116 115

第二節 戦争と村の人々···

一 はじめに···

二 徴兵制の沿革と徴兵検査···

三 明治からの戦役と村の人々···

(1) 西南戦争(明治十年) 128 / (2) 日清戦争(明治二十七年) 128 / (3) 北清事変(明治三十三年) 128 / (4) 日露戦争(明治三十七年) 128 / (5) 青島戦以後 130 / (6) 満州事変(昭和六年九月十八日) 130

128 127 127 127

第三節 滿州開拓と宝泉開拓団···

一 はじめに···

二 滿蒙開拓武装移民···

三 信濃村送出と分村 分郷開拓団送出···

四 義勇軍の創設と送出···

(1) 拓務行政について 140

140

五 宝泉開拓団(木祖村 日義村 奈川村)の送出···

(1) 建設本部の設立 141 / (2) 先遣隊の渡満 142 / (3) 開拓団の概況 142 / (4) 宝泉開拓団の建設 143

140 140 140 139 139

○ 「軍事にまつわる話二題」··· 青木今朝夫

137 136 135 134

七 兵事にかかわる団体···

八 召集···

九 戦没者および従軍者···

○ 「軍事にまつわる話二題」··· 青木今朝夫

137 136 135 134

四 兵事の系統および所管···

五 軍馬の応徴···

六 兵事に関する石造物など···

(1) 日露戦役記念碑(明治四十五年七月建立)

132 / (2) 忠魂碑

132 131 130

七 開拓自興会の設立と加盟···

設設立 147

(1) 内地送還 147 / (2) 帰国後の歩み 147 / (3) 木祖村授産施

145

147

第四節 人々の暮らしがと社会生活

(3) 小学生の思い出 174

一 関東大震災と昭和の改元

(1) 関東大震災 150 / (2) 昭和改元と御大典 151

二 戦争前後の村の姿

(1) 人口と戸口の変化 175 / (2) 村の予算の変遷 176 / (3)

二 昭和の大不況と克服

(1) 十区の嘆願書と村の対応 153 / (2) 不況対策区民大会と村の対応 153

三 経済改善委員会の組織化に向けて

(1) 各区の座談会に提出された希望事項 157 / (2) 寒天工業試験場設立の要請 157 / (3) 土木工事地元請負御下命願い 158

第二節 戦後の復興と村政

(1) 村の選挙 182 / (2) 国の選挙 182 / (3) 県の選挙 183

一 新しい村の政治

(1) 総合計画の策定 184 / (2) 木祖村計画 184 / (3) 事業別計画 185

二 地域振興計画

(1) 恤救規則による貧民救助(明治三十一年) 160 / (2) 恩賜財團済生会による救護(大正五年) 160 / (3) 方面委員の委嘱と活動(大正十二年) 161 / (4) 本格化する本村の「社会事業」 161

三 役場庁舎の移り変わり

(1) 山村振興センター 191 / (2) 木造庁舎から総合庁舎へ 193

四 「広報きそむら」の発行

(1) 広報縮刷版 195 / (2) 二〇〇号をたどって 195 / (3) 戰時の下の広報 196 / (4) 二〇〇号以後の広報 198

五 戰前の社会福祉

(1) 国家総動員法と村民 163 / (2) 勤労動員 164 / (3) さまざままな供出 165 / (4) 統制経済と配給制 166

第三節 社会生活の充実

一 終戦直後の社会福祉

(1) 民生委員と生活保護 199 / (2) 本村の社会事業と活動状況 199

第五章 戦後の復興と社会生活の充実 169 / 230
 第一節 社会情勢の変化 172 172 171
 はじめに 173 / 172 172 171

一 「敗戦」をどう受け止めたか 172 / (2)
 「木祖村事務報告書」からある区長の手記 172 / (2)

二 児童福祉 200 / (2)
 保育所 200 / (2) 保育者 204 / (3) 保育目標と保育計画 204 / (3)

三 国民健康保険と国民年金

(1) 国民健康保険 206
(2) 国民年金 208

四 高齢者福祉

(1) 敬老会 211
(2) 福祉施設と措置 214

五 広域福祉施設

(1) 蘇北地区環境衛生組合 218
(2) 木曾北部環境衛生組合 218
(3) 木曾老人福祉施設組合 220
(4) 松塙筑木曾老人福祉施設組合 221
(5) 木曾福祉行政組合 222

六 「生き生き源流の里」を目指して

(1) 村民憲章と村の木 村の花 224
(3) 村章の制定 225

224
(2) 下流域との交流 224
225
(3) 村章の制定 225

第四節 社会福祉協議会

一 発足当時の歩み

二 社会福祉法人木祖村社会福祉協議会の発足

三 活動

四 具体的な事業内容

(1) 調査・啓発・研修の推進 228
(2) ボランティア活動の推進 228

228
(3) 福祉団体などとの連絡調整 228
(4) 福祉大会等の開催と参加 228
(5) 在宅福祉サービスの推進 229
(6) 幸せを高めるための運動の推進 230
(7) 相談事業の実施 230
(8) 援護活動の推進 230
(9) その他の事業 230
(10) その他福祉事業 230

第五節 横水の歴史と現状

一 下横水
(1) 水源 235
(2) 共同水場 236

二 上横水
(1) 上横水と津島水神碑 234
(2) 上横水水路組合の記録から 234

第六章 上下水道 自然災害 保健衛生

231
300
217
211
206

第一節 上水道と下水道

はじめに

一 上横水

(1) 上横水と津島水神碑 234
(2) 上横水水路組合の記録から 234

二 下横水

(1) 水源 235
(2) 共同水場 236

三 横水以外の地区

(1) 仲町の上 237
(2) 下町 出口 237
(3) 原町 237

四 その他の地区など

(1) 歳の神 238
(5) 末広町 下河原 239
(6) 古府町 239
(7) (4) 238
(8) 237

五 組合水道から村営水道へ

(1) 「祢宜屋水道」の敷設 240
(2) 昭和二十七年の改修工事 240

六 現在の水道施設

(1) 婦人会からの要請 244
(2) 村営水道の先駆け 244
(3) 244

七 水源増設工事

(1) 水道水源の確保 246
(2) 水道水の安定確保 246

八 下水道事業の本格化

(1) 水道水源の確保 247
(2) 水道水の安定確保 247

九 事業推進のため必要な事業

(1) 水道水源の確保 248
(2) 水道水の安定確保 248

十 事業推進のため必要な事業

(1) 水道水源の確保 249
(2) 水道水の安定確保 249

十一 事業推進のため必要な事業

(1) 水道水源の確保 250
(2) 水道水の安定確保 250

十二 事業推進のため必要な事業

(1) 水道水源の確保 251
(2) 水道水の安定確保 251

十三 事業推進のため必要な事業

(1) 水道水源の確保 252
(2) 水道水の安定確保 252

十四 事業推進のため必要な事業

(1) 水道水源の確保 253
(2) 水道水の安定確保 253

十五 事業推進のため必要な事業

(1) 水道水源の確保 254
(2) 水道水の安定確保 254

十六 事業推進のため必要な事業

(1) 水道水源の確保 255
(2) 水道水の安定確保 255

十七 事業推進のため必要な事業

(1) 水道水源の確保 256
(2) 水道水の安定確保 256

十八 事業推進のため必要な事業

第二節 災害と治山 治水

一 繰り返されてきた木祖村の気象災害

二 主な災害の状況

(1) 明治以後戦前までの大灾害 249 (2) 戦後の主な灾害 249

三 治山 治水事業の推移

(1) 戦前までの治山 治水 260 (2) 戦後の荒廃復興目指して 260

(3) 味噌川ダム建設と治山 治水 263 (4) ダム完成後の 263

生活環境づくり 264

第三節 保健衛生と衛生行政

一 急性伝染病の発生とその予防

(1) 赤痢・腸チフス等 266 (2) 昭和二十年(終戦前後)の大発 266

生 268 (3) 昭和三十六年の赤痢集団発生 272

(4) 天然痘 272

273 295 292 290 288 283 276 271

○ 「昭和二十年の集団赤痢の思い出」 川上くめ 271

二 慢性伝染病の発生とその予防

(1) トランポーム 276 (2) 結核予防 280 (3) 寄生虫予防 282

三 伝染病等の予防対策

(1) 隔離病舎の建築 283 (2) 衛生教育 287

四 清潔(法)

五 衛生組合

六 医療従事者

(1) 医者 医師 292 (2) 産婆 助産婦 294

七 母子保健

八 成人病予防

九 保健センターの建設

第七章 農業の発達

はじめに

第一節 戦前までの農業

一 水田と畠地の割合の変化

二 農業経営形態の変化

(1) 旧態のままの農業 305 (2) 昭和の大不況と農村更生 306

三 寒冷地農業の障害と克服

(1) 温水溜池 307 (2) 肥料と病害の克服 310

質改良 312 (4) 木祖村における農業研究 313

310 (3) 水田の土 313

第二節 馬と養蚕

一 農業と木曾馬

(1) 労働力としての馬 314 (2) 馬と現金収入 315

飼育頭数の変遷 317 (3) 馬の

二 養蚕

(1) 木祖村の養蚕業の変遷 319 (2) 養蚕業の近代化に向けて 314

320 (3) 桑園の確保と拡張 324

319 (2) 養蚕業の近代化に向けて 318

第三節 農業生産と諸団体

(1) 勉業会 326 (2) 農業会 326 (3) 産業組合 326 (4) 農業

業会 328 (5) 農業協同組合 326

第四節 戦後の農地改革

一 農地改革の内容	330	330
(1) 第一次農地改革	330	330
二 木祖村の農地改革	330	330
三 農業委員会	334	331
第五節 機械化と多様化する農業	335	335
一 農業の機械化	335	335
(1) 機械化のスタート	335	335
農業機械の大型化と農業構造改善	337	337
二 転換を迫られる農業	338	338
(1) 水田利用再編に向けて	339	339
第六節 畜産業の台頭	341	341
一 牛の頭数の変遷	341	341
(1) 牛導入の背景	341	341
二 摺乳酪農の経営	342	342
(1) 優良品種を村有牛に	343	343
卵の移植	343	343
三 繁殖和牛（肉用牛）の経営	344	344
(1) 高値で売れる肉牛	344	344
造成	344	344
(3) 一年一産目指して	345	345
(4) 高能力種牛	345	345
日進月歩の飼育技術	346	346

四 今後に向けて

第七節 おんたけ白菜と現代農業	347	347
一 おんたけ白菜	347	347
(1) ある白菜農家の手記	347	347
菜作り	348	348
(3) 白菜が好適とされた背景	349	349
白菜生産の実際	350	350
二 二一世紀に向けて	353	353
第八章 木曾山支配と村の人々	355	355
はじめに	355	355
第一節 御料林から国有林へ	446	446
一 明治維新直後の木曾山支配	355	355
二 明治初期の木曾山と人々の暮らし	355	355
三 地租改正と官民有区分	355	355
四 木と共に生きる人々の抵抗	355	355
五 官林から御料林へ	355	355
六 木祖村における民有地下げ戻し運動	355	355
七 請願から哀願運動へ	355	355
八 御下賜金下付運動へ	355	355
九 御下賜金下付その後	355	355
○ 「奥山植樹の思い出」	355	355
○ 永瀬光男	355	355
396 391 386 382 379 375 371 365 359 358 358 357	396 391 386 382 379 375 371 365 359 358 358 357	396 391 386 382 379 375 371 365 359 358 358 357

第二節 公有地と民有林

一 官民境界の確定

397	(1) 区分と面積比 『長野県町村誌』	398	(2) 木曾林政史・十三 (徳川義親著)	398
397	(3) 公有地申渡と「御請書」	401		
397				397 397

二 民有林の状況

(1) 『長野県町村誌』	398	(2) 公有地凡反別木数取調帳	399
(3) 菅原区山林保護委員会規約細則	409		
			402 398

三 区有林の管理

(1) 小木曾区山林の管理	403	(2) 蔽原区山林の管理	406
菅原区山林保護委員会規約細則	409		(3) 402
			398

四 区会と区有林

(1) 区会予算とその変遷	411	(2) 山番制度	412
割と損木公売	412	(3) 井水掘	
木等の下付	413	(4) 区有財産処分	413
立ち回り	416	(5) 家作木、共有	
		(6) 行火願	414
		(7) 捕鳥	415
		(8) 入会	416
(1) 私有林の形成	418		
立ち回り	419		
			418

五 私有林

(1) 私有林の形成	418	(2) 私有林の面積	419
立ち回り	419		(3) 私有林の
			418

第三節 村有林の造成と現在の区有林

一 第一次公有財産統一

(1) 公有財産統一の背景	420	(2) 初めての「木祖村連合区会」	420
(3) 各区会に残る区有林	421		
			420 420

二 第二次公有財産統一

422

第四節 森林鉄道と森林測候所

一 森林鉄道

(1) 木曾谷の森林鉄道敷設の経緯	439	(2) 小木曾森林鉄道と	439
竹川森林軌道	440	(3) 作業軌道	443
		(4) 蔽原駅専用側線	443
			439 439

三 不要存御料地交換

(1) 御料地交換と村の対応	423	(2) 払い下げ予定地の調査	423
(3) 村の対応	424	(4) 御料局の提案と交渉	425
議会の議決	426	(5) その後の経過	426
			423

四 林野整備法と国有地払い下げ

(1) 国有地払い下げの背景	427

五 戦後の村有林づくり

(1) 官行造林	428	(2) 村有林野造成条例	429
二年以後十ヵ年施業案	432	(3) 昭和五十三年『木祖村総合計画』	432
			428

六 森林組合の変遷

(1) 森林組合の生い立ち	433	(2) 戦後の森林組合	434
森林組合の合併	434		
			433

七 今後の林業への布石

(1) 村民と山とのかかわりから	435	(2) 郷土の森づくり	435
437	(3) 平成日進の森づくり	437	
			435

二 森林測候所	444 / (5) 林鉄と住民	444 / (6) 森林鉄道の撤去	444
(1) 設置の経緯	445 / (2) 木祖森林測候所	446	
第九章 村の経済と産業の発達	447 / 488	445	
はじめに			
第一節 村おこしと山村農業の建て直し	450 / 450	449	
一 在郷の清算と山村經濟	451		
(1) 在郷の清算	450 / (2) 租税の改正と現金収入	450 / (3) 購	
買組合の発足と新しい農業	451	450 450 449	
二 青年会 処女会から村おこしへ	452		
(1) 青年会誕生の背景	452 / (2) 青年団活動とその発展	453	
三 小木曾共同経営組合	455 453	452	
四 副業共同経営組合が果たした役割と成果			
第二節 宿場町から木櫛の町へ	458 458		
一 木櫛の消長と藪原宿	458		
(1) 明治 大正期の木櫛産業	459		
二 鉄道開通以後の木櫛産業	459 / (2) 木櫛の合間に副業も	459	
(1) 鉄道開通と藪原宿	460 / (2) 木櫛にも税金が	460	
三 昭和期のお六櫛産業	461 / (3)		
(1) 昭和大恐慌と藪原の町	460 / (2) 木櫛にも税金が	460	
戦後の好景気と行商時代	462 / (4) 手づくりの良さ	462	

第三節 木櫛から木工業の町へ	463 463		
一 地場産業と木材木工業の歩み			
(1) 本村木工業の先駆け	463 / (2) 木曾木工株式会社	463 / (3)	
木祖産業振興組合	464 / (4) 木祖産業協同組合	465 / (5) 木曾	
木梓協同組合	466		
二 木工関連産業の変遷	467 / 488	445	
(1) 製材業とその変遷	466 / (2) 下駄	468 / (3) 桶と板へぎ	
469			
三 海外へ発展する木工業	470		
第四節 諸産業と商業の発達	471 471		
一 木祖村の鉱業	471 / (2) 石灰	472 / (3) 長石	
(1) マンガン	471 / (2) 石灰	472 / (3) 長石	
石	472	472 / (4) 硅	
二 百草			
三 寒天			
四 商業の発達			
(1) 庶民金融	474 / (2) 勘業会の成立	476 / (3) 産業組合の成	
立と経済活動	478 / (4) 経済恐慌と経済更生計画	479 / (5) 第	
二次世界大戦後の産業経済			
二 木祖村商工会			
三 税制と納稅義務			
二 木祖村商工会			
三 税制と納稅義務			
484 483	474 473 473	470	466

第五節 「木祖村勢一班」と本村の産業

(1) 木祖村勢一班の構成	487	(2) 産業の概要	487	(3) 産業	487
に関する総論					
487	487	488	488	488	486
(4) 営業者種別人員					

第十章 交通 通信と安全な暮らし	489
はじめに	574
第一節 鉄道の敷設と開通祝賀会	491
一 中山道鉄道の敷設	492
二 中山道鉄道の誘致運動	492
三 中央鉄道の誘致運動	491
四 鉄道敷設工事	491
五 蔡原の用地補償交渉と比較線	492
六 中央線全通と蔡原駅の開業	491
○ 「鉄道工事当時のころ」	512
(1) 全線開通祝賀会	511
514 (3) 開通当時の列車	516
蔡原駅の開通祝賀会と開業	512
(1) 村人の恐怖心が現実に	517
八 鉄道と村の産業 村人の生活	518
(1) 御料林材の鉄道輸送	518
九 国鉄の近代化と民営化	519
(1) 近代化による蔡原駅	521
財政再建と民営化	525

第二節 道路 橋梁とその改善

一 村内の生活道路とその変遷	528
(1) 村内生活道路の現状と課題	528
木祖村を中心とした交通の変遷	529
二 村道菅線と菅自動車商会の発足	536
(1) 村道菅線の歩み	536
菅自動車商会の発足	536
「きさらぎの道」と吉田地区の交通	536
三 県道奈川 木祖線	538
四 災害と改修の歩み	538
蔡原バイパスと「上高地ゆう遊ライン」	540
五 歴史の道としての鳥居峠	541
鳥居トンネルの開削	541
543 (3) 新鳥居トンネル	544
五 自家用自動車の普及増加	546

第三節 郵便 電話 有線放送 電気	548
一 郵便	548
(1) 郵便制度と郵便取扱所	548
初代取扱役	548
(3) 蔡原郵便局の変遷と郵便物の取り扱かい	548
二 電話	548
(1) 設置までの経緯	551
特設電話（市内電話）の設置	551
三 有線放送と同報無線	551

四 電 気

(1) 鳥居電力株式会社と電力の供給 555 / (2) 電灯の始まり 555

五 ラジオ テレビ
(1) ラジオ 557 / (2) テレビ 558

557

558

第四節 安全な暮らし

一 明治初年ころの防災

二 蔽原消防組の誕生

(1) 明治十七年蔽原の大火 560 / (2)

消防組の組織化に向けて
561 / (3) 蔽原消防組の誕生 562 / (4)

消防器具の配備 563 / (5)

564

三 消防組から警防団まで

(1) 組織の拡大から警防団へ 564 / (2)

戦後の消防団時代 565

564

四 自治消防団の発足と今日までの歩み

(1) 自治体消防誕生 565 / (2)

自治体消防五十年の歩み 566 /

565

(3) 大災害と村および消防団 568 / (4)

木曾消防署北分署 568

569

五 治安維持（警察）と司法（裁判所）

(1) 明治新政府による治安の維持 569 / (2)

明治初期の蔽原 569

569

巡査屯所 570 / (3)

木祖村駐在所 571 / (4)

裁判所蔽原出張所 572

六 交通安全

(1) 交通安全協会誕生と交通安全宣言 573 / (2)

魔の百五十キ

ロポストをめぐつて 574

第十一章 蔽原スキー場と観光開発 576 / 626

はじめに.....

第一節 木祖村郷土会と蔽原スキー場の開発 578 578 577

一 木祖村郷土会の発足 578

(1) 設立総会までの経緯 578 / (2) 設立総会 578 / (3) 設立趣意書 579 / (4) 木祖村郷土会規約 580 / (5) 発足当時の会計予算 581

581

二 スキー俱楽部の発足 581

三 蔽原スキー場の開発 582

(1) 発足当時の蔽原スキー場の概要 582 / (2) 開設までの経緯 583

584

四 発展する蔽原スキー場と戦争によるスキー場の閉鎖 582 581

(1) 運営と宣伝 585 / (2) 鉄道省山の家建設 587 / (3) 「湯川

寛雄日記」と蔽原駅乗降客の推移 588 / (4) スキー場への交通 589 / (5) スキー場の閉鎖 589

585

第二節 戦後ににおけるスキー場の再出発

一 新しいスキー場を目指して

二 国鉄「山の家」の建設

三 スキーリフトの建設

四 近代的なスキー場を目指して

(1) 株式会社への組織替え 594 / (2) 高松宮賜杯第四回中部日

594 593 592 591 591

597 596 595

○ 「千五百平の開発とリフト建設の思い出」 : 原 鶴松 : 599

○ 「今西錦司先生遭難? やぶはら高原スキー場での出来事」 久保富賢 : 600

まの森とやぶはら高原のイベント 624

八 更なる発展を目指して 624

(1) 郷土の森 水木沢 622 / (2) 日曜画家の村 624 / (3) こだ

(1) 新しい村づくりのためには 653 / (2) 水利権をめぐつて 653

第三節 鳥居峠 木祖公園 境峠の開発 604 604

一 鳥居峠の文化と交通 604

(1) 鳥居峠の概要 604 / (2) 観光地としての鳥居峠 606

二 木祖公園（天然菖蒲園）の開発 608

三 境峠（しらかば平）の開発 609

第四節 観光協会のあゆみと観光開発 613

一 観光地としての木祖村 613

二 観光協会の発足 613

三 昭和四十年代の観光協会 613

(1) 昭和四十二年度役員 615 / (2) 観光について協議されたことなど 615 / (3) 夏季学生村の開設 616 / (4) 利用者の実態 616 / (5) 予算 617

(1) 新しい観光へのあゆみ 617 / (2) 村の観光事業 618

五 蔽原駅の無人化と業務の委託 617
六 西山総合開発 617

七 水木沢 こだまの森 日曜画家の村と各種イベントの開催 621
(1) 郷土の森 水木沢 622 / (2) 日曜画家の村 624 / (3) こだ

第十二章 幻の貯水池と味噌川ダム 627

はじめに 629

第一節 幻の「蔽原貯水池」 630

一 昭和初期の蔽原貯水池構想 630

(1) 発端 630 / (2) 村議会の対応(公益問題と答申) 631 / (3)

二 「蔽原貯水池」問題の顛末 632

(1) 再燃した「貯水池問題」 634 / (2) 永安県知事の談話 634

(3) 木祖村の「貯水池設置反対陳情および上申書」 635 / (4) その後の顛末 636

第二節 「味噌川ダム」の建設 638

一 時代からの要請 638

(1) 治水上の要請 639 / (2) 利水上の要請 639

二 ダムが完成するまで 638

(1) ダム建設に同意するまで 639 / (2) 村民の要求項目と村づくり 644 / (3) 上下流連絡協議会設立 647 / (4) 補償問題成立 648 / (5) 本格化したダム工事 649 / (6) ダム竣工 652

(1) 新しい村づくりのために学んだもの 653 / (2) 水利権をめぐつて 653

654／(3) 上下流の交流と支え合い 655／(4) 豊かな自然を取り戻すために

四 データで見る味噌川ダム 655

654／(3) 上下流の交流と支え合い 655／(4) 豊かな自然を取り戻すために

一 戦後の教育

二 新しい教育活動

(1) 終戦時の木祖小学校 693／(2) 新学制発足までの学校の様子

696／(3) 御真影と教育勅語の返還 697／(4) 学校五日制

698

三 新制木祖中学校の発足

四 P T A の発足と活動

(1) 発足したころのP T A活動 702

五 分校の廃止と本校への統合

(1) 菅分校 704／(2) 小木曾分校 704

661
782

664
664
663

656

第十三章 教育と文化

はじめに

第一節 学校教育

一 明治期の教育

(1) 学制発布と初期の学校 664／(2) 新小学校令の公布 664／(3)

木祖村の学区と学校設立 665／(4) 蔡原尋常小学校ができるまで 667／(5)

八級四年制下等小学校のころ 669／(6) 菅学校の学校明細表 669／(7)

高等科の設置 671／(8) 教育の実際 673／(10) 対御真影の下賜 672／(9)

教育勅語 671／(8) 教育の実際 673／(10) 対御真影の下賜 672／(9)

尋常小学校以後のところ 676

二 大正期の教育

(1) 木祖小学校移転改築にかかわった人々の考え方 677／(2) 実業補習学校の充実 678／(3)

青年訓練所の開設 680／(4) 女性 680／(4)

教員福田英子の日記（大正期末の教育） 681

三 戦時における教育 682

昭和十五年ころまでの小学校教育 683／(3)

青年学校 688

第二節 六 三制と新教育

692

第三節 学校建築

一 木祖村における学校の創立

二 蔡原学校創立とその変遷

(1) 木祖尋常高等小学校の新築（明治三十三年） 706／(2)

中の校舎建築 708／(3) 倉籠の地へ新築移転 709／(4)

小学校校舎の全面改築 713

三 木祖中学校の設置

(1) 特別教室の建築 718／(2) 中学校校舎の全面改築 719／(3)

中学校体育館（屋内運動場）の建築 719／(4) 学校給食センターの設置 720／(5)

四 小木曾分校の創設と変遷

(1) 校舎の新築 724／(2)

昭和三十年代の小木曾分校改築事業 724

726

718

706 706 706

703 702 698

693 692

五 菅分校の創設とその変遷

(1) 菅学校来歴概略	727 / (2)	仮校舎新築落成移転式実況ノ概略
	729	

六 吉田学校の創設と変遷

	730
--	-----

第四節 木祖小中学校の教育

一 木祖小学校の教育	731
------------	-----

(1) 校舎改築後	731 / (2)	新しい教育の始まり
	731	学校

週五日制の導入	732 / (4)	学校目標
	732	授業日数と授業

時数	732 / (6)	一年間の歩み
	733	一日 一週間の生活

735 / (8)	生活科の新設	735 / (9)	パソコンの導入
	736	ふ	

るさと学ぶ教育の推進	737 / (11)	児童会活動とクラブ活動
	738	多様な学校教育の内容

二 木祖中学校の教育

739

(1) 創立五十周年	739 / (2)	教育目標		
	739	教育課程の断面		
740 / (4)	学校を動かす組織（職員の校務分掌）	740 / (5)	教科指導の改善	
	740	生徒指導の充実	743 / (7)	郷土美化活動
743 / (8)	実を結ぶ花壇活動	744 / (9)	学有林作業	
	745 / (11)	回り続ける風車	746 / (12)	村民の厚意
746 / (13)	木祖中学校の課題	747		

第五節 社会教育	748
一 社会教育のあゆみ	748
二 公民館 分館の活動	748

(1) 公民館の設置と運営	749 / (2)	木祖村公民館設置条例
	752 / (3)	木祖村公民館分館運営規則（昭和五十八年四月一日教育委員会規則第一号）
	754 / (4)	新生活運動
三 青年会	755	
四 婦人会	756	
五 子供会	757	
六 生涯活動と文化活動	758	
(1) サークル活動	763 / (2)	同好会
	764	
七 成人式	764	
第六節 社会体育	765	
一 はじめに	765	
二 体育協会の設立と活動	766	
三 木祖村社会体育委員会発足と活動	767	
(1) 発足当時の様子	768 / (2)	昭和三十三年度の主な活動
	769 / (3)	木祖村体育協会発足までの経緯
四 木祖村体育協会の再発足	769	
五 体育施設とその活用	770	
(1) 木祖村総合運動場	770 / (2)	社会体育館
	771 / (3)	テニスコート
野球とソフトボール	773 / (4)	剣道
	774 / (5)	弓道場
二 対外試合での活躍	774	
一 村民運動会	771 / (2)	村内一周駅伝大会
	772 / (3)	早起き
二 公民館 分館の活動	771	
一 村民と体育	771	
(1) 村民運動会	771 / (2)	村内一周駅伝大会
	772 / (3)	早起き
野球とソフトボール	773 / (4)	剣道
	774 / (5)	その他
二 対外試合での活躍	774	

(1) 郡下総合体育大会等への参加 775 / (2) 県 全国大会での

活躍 775

三 村および関係諸団体の刊行物···
は割愛) 788

第七節 村の文化財保護と郷土館

一 はじめに···

二 指定文化財の概要···

(1) 鳥居峠と田ノ上観音堂 778 / (2) 指定文化財の保護活動と

今後の課題 779

三 木祖村郷土館とその運営···

(1) 郷土館の開館 780 / (2) 木祖村郷土館設置条例（抜粋）

780 / (3) 展示内容 781 / (4) 運営と利用者の変遷 782

第十四章 村の統計と自治をになつた人々

783 / 810

第一節 村の諸施設と主な刊行物

一 村の諸施設一覧···

二 諸施設の概要···

(1) 松原集会所 785 / (2) 木祖村林業会館 786 / (3) 菅公民館

786 / (4) 大平公会所 786 / (5) 菅北部集会所 786 / (6) 木祖村

民センター 786 / (7) 木祖村郷土館 786 / (8) 転作研修センタ

1 787 / (9) 木祖村総合庁舎 787 / (10) 青年の家(十区集会所)

787 / (11) 木祖村生活改善センター(公民館藁原分館) 787 / (12)

木祖村老人福祉センター 788 / (13) 一四区集会所 788 / (14) 一

五区集会所 788 / (15) 一七区集会所 788 / (16) 教員住宅(表で

785 785 785

第二節 統計で見る村の姿 ···
一 戸数と人口 ···
二 村会計の変遷 ···
三 グラフで見る明治22年 昭和26年 平成10年の村の予算 ···
参考文献

参考文献

「木祖村誌 歴史編」関係者名簿
資料提供および話者一覧
あとがき

803 800 793 790 790 789